

しがじん VOL.29 2023.9

# SHIGAJIN

全障研滋賀支部発行 TAKE FREE!



特集 「夏の思い出」 総会・サークル代表者会報告

連載 今日もお仕事いってきます



## 特集 「夏の思い出」



今年の夏も猛暑が続きましたね。ぐったりするような暑さの中でしたが、コロナ禍が少しずつ落ち着き始め、数年ぶりにプールや海に出かけたり、花火大会やお祭りに参加された方も多いのではないのでしょうか。夏だからこそできる実践や、この夏の思い出を集めました！

夏と言えば水遊び！本校でもたくさん子どもたちを魅了しているプール遊びですが、これまで担任した子どもたちの中には「プールは苦手」という子どもたちも少なからずいました。

数年前に担任していた小2のシンくんは、プールの学習の間、プールサイドにじっと座って足を少し水につけるだけ。時々友だちが水しぶきをかけると「もう！やめろ！！」と怒ります。他の子どもたちがプールに浮かべて遊んでいたいろんな形のソフトブロックを灼熱のプールサイドに並べ、「おでんやで」と、真反対の季節の遊びをしたことは忘れません(笑)でもそんなシンくんの姿を、その後もたくさんの先生方が受け止め、ついに今年みんなと一緒に大プールに入ったと聞きました。どんな表情で入っていたのかなあ、見てみたかったなあ。

わたしは現在、小学部を離れて高等部の担任をしています。本校の高等部は教育課程の関係上、プールはありません。少し残念に思いつつ、思春期の女子たちの「プールとか絶対いややし！」の声にもどこか納得しています。でもあつ〜い夏。ちょっとはみんなで涼みたいよなあ。

というわけで、1学期最後にコースの生徒約30名での水風船大会を企画しました。いつもの授業とは違い、数日前から「先生、ビーサン持ってきたで」「なあ、来週ってほんまにやる？」とわくわくな生徒たち。

しかし気になったのは、シンくんと理由は違えども「水が苦手」な生徒のこと。みんなが楽しめる方法を考えていたとき、生徒が「先生、めっちゃでかい水風船あるの知ってる？」と教えてくれました。さっそくその日の放課後にネットでポチ！同じ学校の事務局メンバーと一緒に教材研究をしてもらいました。水を入れるとどんどん膨らむ風船。巨大スライムのようなイメージで触るとひんやり、ぼよぼよ動いて面白い！これなら濡れるのが嫌な生徒も水の感触を楽しめます。大人4人で大はしゃぎしたのは、私の夏の思い出です(^o^)



ぼよぼよ〜



水風船大会当日は朝からいろんな先生方を巻き込んで準備を手伝っていただき、約200個の水風船ができました。結論から言うと、巨大水風船の出番はなく、大盛り上がり！「高校生活で一番楽しい」というすてきな笑顔が見られました。控えめな女子もちゃっかり私に風船を投げていました(笑)

水の力は偉大だなあ〜と思いつつ、どうしても怖いシンくんのような子どもたちのことも忘れたくありません。9月はみんなで大水風船を作ってみよう！皆さんもぜひ(^o^)

滋賀支部事務局 県立養護学校教員

大人が乗っても、割れません！乗ってくれたのは事務局長…

放課後等デイサービス World of Wing（以下、World）の夏の思い出は、他事業所との交流会をしたことです。他事業所との交流ができないか？と所長が思い始めたのが今から6年前。

3年ほど前（コロナ直前）に近所の事業所から杵と臼で餅つきをするとの情報を頂いたので、子どもたちを参加させて頂けませんか…とこちらから声かけしたのが、最初の交流でした。お互い初めてのことで、交流というよりもお客さん状態だったのを覚えています。

その後、すぐにコロナ禍となり、交流の話もなかなか進まない状態でしたが、今年（令和5年）5月から新型コロナも感染分類が5類に変更となり、しばらく見合わせていた交流が、ついに念願が叶い、夏に2つの事業所と計4回開催することができました。

内容としては、一緒に公園で遊んだり、音楽を楽しんだり、ミニ運動会を開催したり、以前餅つきに参加させて頂いた事業所からは、「手作りのお化け屋敷を作ったので、是非来てください」と招待して頂きました。最初は、緊張の面持ちで、なかなか他事業所のお友だちと関わろうとしなかった子どもたちですが、今では自ら関わる姿もあり、わずかな交流の中で成長した子どもの姿を紹介させて頂きます。

自己肯定感が低く、初めてのことや初対面の人たちがいる場所で何も行動することができなかったA君。Worldで多くの経験を積み、少しずつ自信が持てるようになりました。交流の音楽療法では、自らマイクを持ち、怪獣になりきり「ガオー！」とみんなの前で叫ぶことができました。今まで知らない人の前で、そのような姿を見せることがなかったA君、本当にスタッフを驚かせてくれました。

まだ始まったばかりの他事業所との交流ですが、Worldを利用している子どもたちは知的レベルも最重度～軽度、弱視の子、コミュニケーション障がいの子等、障がいは様々ですが、事業所内のお友だちだけでなく、この世の中にはいろんな人がいること（例えば車椅子の人、聴覚障害の人、視覚障害の人、手や足がない人、言語的コミュニケーションがとれない人、人が苦手な人…等）を知り、どんな人に会っても思いやりを持って関われる人になってほしいと願い今後も支援していきたいと思います。

放課後等デイサービス World of Wing 職員



夏と言えば花火！すてきな表紙のイラストを提供していただいたのは、大津市の社会就労センターあおぞらの皆さんです。今年度の表紙を担当させていただきます。

実は花火のイラストを3枚いただいて、「1枚選んでください」とのことだったのですが編集担当は選びきれず…表紙に2枚、そしてこちらでも1枚紹介させていただきます。

あおぞらの担当の方からメッセージをいただきました(^O^)

「2021年の共同作品です。この頃は花火大会など、イベントもコロナ禍で制限されており、楽しみも限られた中で、3グループに別れて小グループでの制作となりました。アクリル絵の具を使い、トイレットペーパーの芯や、タンポンを利用して、スタンプ式に取り組む姿は、思った以上に楽しんで制作に取り組む皆さんの姿がありました。3つの作品を並べての展示は、迫力満点！壁面に花火大会を思わせる大作が完成しました。」

# 今日もお仕事

No.2

## いってきます



こちら「ホーム ぽれぽれ」です！



こちら「スマイル あゆみ作業所」です！

社会福祉法人あゆみ福祉会は、就労継続支援 B 型のあゆみ作業所(定員 34 名、利用契約者 50 名)、生活介護のスマイル(定員 20 名、利用契約 26 名)、就労移行支援の虹彩工房(定員 6 名、利用契約者 2 名)の日中事業所があります。グループホームは地域に 6 棟(定員 27 名、入居者 22 名)。強度行動障害のある人に特化したホームぽれぽれ(定員 17 名、入居者 15 名)があり 3 年前に、社会福祉法人蒲生野会さんのホーム桜川・相談支援センター桜川と共に東近江市の地域生活支援拠点事業として運営しています。1979 年の無認可作業所の開所以来、どんなに障害の重い人も受け止め、この東近江市で暮らしていけるようホーム創りに力を入れてきました。

### 不安な中でのスマイル入所

和久さんは、2017 年 4 月に野洲養護学校高等部(寄宿舍生)を卒業して、生活介護事業所スマイルに入所しました。実習で経験を積んでいたこともあり、実習の時から、手先はとても器用で内職仕事やペットボトルのラベルはがしなどには積極的に取り組まれました。しかし、卒業後の様々な環境が変わったこと(場所、人、住まい、初めての行事)での見通しの持ちにくさや職員との関係づくりの中での試し行動が重なり、所内や外出先での破壊行為が度々みられました。入所 3 カ月が経過し、職員との信頼関係が作れてきた事、その日の活動や行事等のスケジュール提示で見通しを持つことにより、徐々に破壊行為は落ち着いてきました。

入所 3 年目は、大変大きな節目の年でした。

ホームぽれぽれの開所により、生活の場が自宅からホームぽれぽれに移ります(後述)。スマイルでは、作業の頑張りが本人の自信の積み上げになり、3 年目の途中から週 1 回、就労継続 B 型のあゆみ作業所のエコドリーム班の実習が始まりました。そこから 3 年かけ、その実習を週 2 日⇒3 日と少しずつ増やしてきました。エコドリームのリサイクルの作業は外作業で大変ですが、大好きな車に乗っての移動もでき、やりがいを感じているようでした。翌年の 1 月には、4 月からは「エコドリーム班に行く」と自分で決められました。

## 「仕事したいって言うてるやん」



7年目の今年4月に生活介護スマイルより就労継続B型あゆみ作業所(エコドリーム班)に完全移籍されました。

作業班の異動にあたり、本人はいつも全力100%で仕事をしているので「しんどくならないか」という心配が職員にあり、4月の初日に本人に「週1回スマイル班の活動に参加してみない？」と本人用に作成したカレンダーを見せて尋ねましたが、本人からは「仕事を頑張ってたくさんお給料が欲しいから仕事します！」と返事をもらいました。4月終わりにも再度「活動」の話をする少しイライラして「なんで活動の話するの？仕事したいって言うてるやん。」と。苦手な仲間もいますが「仕事やし頑張るわ。」と自分に言い聞かせ頑張っています。工賃も月5,000円から12,000円と大幅にアップし、モチベーションもアップしています。

## ホームぼれぼれでの楽しみ

2020年5月のぼれぼれ入居後、自宅からの生活環境の変化やにぎやかな入居者との集団生活に不安やイライラが募り居室の押し入れを壊すこともありました。一方で食生活が整い減量に成功し標準体重となりました。

和久さんが入居する一か月前に、弟が入居しており、兄弟だからと支援者の安易な考えで同じスペースでの生活がスタート。今まで何度も言われてきた「お兄ちゃんだから」と頑張るものの、弟の行動を受け入れきれない苛立ちやコロナ禍での行事の中止や行動の制限等でフラストレーションも高まり食欲の減退で体重減少もありました。

しかし、その中でも毎日、全入居者分の洗濯物干し、兄弟スペースの掃除など意欲的に行う姿は変わりないものでした。また、みんなが寝静まった夜に職員とお話をする時間を見つけ、今までとは違った形で楽しみを見つけることもできました。スマイルへ通所時から工賃から毎月1,000円ずつ貯金をして、欲しい物を買うという楽しみを続け、ぼれぼれ入居後も同様に毎月貯金をし、タブレットやゲームのソフト等をホーム職員と一緒に買いに行き、嬉しそうにみんなに見せることもありました。



そして、今年度より弟さんの別棟への引っ越し、日中活動の異動という変化もありました。リサイクルの体力仕事なので、毎食お代わりをして体力をつけています。工賃も大幅にアップして貯金の額も増やし、次に欲しい物を購入するために頑張っておられます。



コロナが5類となり、少しずつ作業所の旅行や祭りの話も出てきて、楽しみも増えてきつつあります。仕事・生活・余暇のいずれもが充実し、彼自身のやりがいや生きがいができたことで毎日の仕事や生活に張り合いを持ち自信にも繋がってきています。

日中も暮らしの場も実践を重ねる中で、改めて和久さんの思いをくみ取ることが一番大切だと、この6年半を振り返って感じています。24歳の多感な青年として、彼の願い実現に引き続き応援していきたいです。

## お母さんから

「お金をためてほしいものを買いたい!」「お仕事頑張るで!」いつも前向きに明るくそう言っている和久。すっかり良い!?大人になってあゆみ福祉会に溶け込んでいる様子は、本当にたくましいと感じます。これも今まで和久に関わってくださったすべての方々のおかげだと思っています。

和久は、あゆみ福祉会へ入所して6年間生活介護の班に所属していましたが、今年度入所7年目の4月より同福祉会の就労継続支援B型事業の班に異動させてもらいました。以前からB型へは曜日を決めて実習させてもらっていました。前年度の終盤に職員さんから「和久君は4月からどうしたい?」と和久の『思い』を尋ねていただき「B型で頑張りたいです」と答えたようです。その『思い』を大事に』していただいて異動する運びとなりました。益々、頑張る原動力となっているので職員の皆さんには感謝しかありません。

生活面では、入所4年目よりグループホームに入居させていただき、規則正しくそして余暇の時間は自室で大好きなパソコンでYouTubeを観たりして楽しんでいます。時々洗濯物干し等もご指導の下、おこなっているようです。職員の皆さんにはお手数をおかけしながらですが、『自分らしく』過ごさせてもらっている日々は和久にとって最高だと思います。

**『進路指導』は『出口指導』ではなく、『生き方指導』である。**

…和久が小学部のころ、私が進路学習会へ参加したときに進路係の先生がこのように語られ、とても印象に残っています。まだまだ知識不足だった私でも心に刺さりました。

和久も親である私も『生き方指導』により、卒業前後だけでなくこれからもずっと勉強の毎日だと思って頑張ります。

## 学校(寄宿舍)時代の先生から

生田さんと初めて会ったのは彼が小学部3年生のときのことです。この年、生田さんは半年間、寄宿舍で生活することになりました。当時、寄宿舍はすでに年度末での廃舎が決定しており、年齢的には幼かったのですが、かけこみ的な入舎でした。初めての寄宿舍生活はとまどうことも多く、大変な思いもたくさんしましたが、一つずつ乗り越えながらお互いに力をつけてきたと思います。5年生の時に転校し、再び一緒に寄宿舍で生活することになりましたが、初めての時のような混乱はなく、結局、高等部卒業まで寄宿舍生活は続きました。卒業し、あゆみ作業所に通い始めたころ、毎日のように電話をかけてきて、学校時代のたわいもない話や言葉遊びをしていました。新しい環境を受け止めようと葛藤していた時期だと思います。

卒業して初めての夏、寄宿舍の同窓会があり、久しぶりに集まりました。BBQをしながら「みんなUSJに行きたいね」と話していましたが、学校時代から「OO行きたいし、ぼくお金を貯めるわ」が口癖だったので、真剣には受け止めていませんでした。しかし、年が明けて、お母さんから「USJに行くつもりでお金をためている」というメールが届き、急遽、話していたメンバーに声をかけて2月に出かけました。学校時代は、気持ちをためるのが苦手で、「お金を貯める」と言っただけは、一日しかもたず使ってしまうことの繰り返しでしたが、ほしいものがあるときはお金をためて買うというのは今ではすっかり定着しているようです。すっかり社会人に成長した生田さんとまた一緒にでかけたいと思っています。

(元寄宿舍指導員 能勢ゆかり)



## 全障研滋賀支部総会・サークル代表者会報告



総会は、6月10日土曜日、滋賀大教育学部の会場参加7人とZoom参加約7人とのハイブリッドで行われました。参加者は少なかったのですが、実は事務局員同士でも互いに会って話すのは久しぶりということで、これまでにないにぎやかな総会となりました。

はじめに白石恵理子支部長から、今日的な課題も合わせて、情勢について報告がありました。

1つは国会の6月時点における動きについて、2つの法案が通過した点について問題提起がありました。「入管法改正案」「LGBT法案」についてです。いずれも人権問題を軽視するこの国の体質そのものが浮き彫りになっている、特に「LGBT法案」に関して「維新の会」が「多数の国民の安全安心が守られてこそ、そういう人たちの人権は守られるべき」というあたかも少数者の人権は一段下と見なしている発言だと問題点を指摘されました。

2つ目には、就学前の保育園を取り巻く状況について。マスコミは保育園を巡るいくつかの事故や事例を取り上げ「不適切な支援」が他にもないかを探るばかりです。しかしながらそのための保育士の配置基準の改善や補助金の増額などなしに、管理監視の強化にばかり政府が目を向けていることを取り上げ、本質的には何も変わらない、変えようとならない国や厚労省の態度についても改善が測られるべき、と話されました。

この「不適切な支援」を入所施設や高齢者施設に置き換えてみるとどうでしょうか。「お風呂に週3回入っていたのが、職員が欠員になり、2回になりました」「外出は毎月一回だけ」これが「不適切な支援」と言わず、何なんでしょう。このことの改善や豊かに暮らす権利を剥奪しておいて、なぜ実態調査だけで終わらせようとするのでしょうか。私達は、「障害者の暮らしや人権が守られていないことは国民みんなの権利も同時に守られていない」と改めて考え、広く国民に知らせるべき課題であると問題提起されました。

そのあと、長友事務局長、森原さんからの会計報告がありました。お二人からは「会員は目標に達しなかったが、このコロナ禍の中でもきっちり会費納入をしてくださり、むしろ課題別サークルや職場サークルは活気に溢れて増えている、今年度も更に学習会など密の濃い活動を開催し、会員はもちろん、幅広い層に全障研の存在をしらせ、学び合う場作りを進めたい」と締めくくられました。

また、2022年度から始まった重度障害者の生活を考えるプロジェクトについても黒田吉孝さんから現状と今年度の新たな視点、課題について話されました。参加者からは、「滋賀県は福祉県だと言われていたのはもう遠い昔で、入所施設希望の待機者は150人を超えている。昨年度6人の県内入所施設に戻ってきた、が情けないことにその内4人が自宅待機を余儀なくされている。こうした成人期の問題点も明らかにして、きょうされんや障滋協、全障研の3団体で意見交流や協議を深め、運動を推進して行きたい」とありました。

引き続き、サークル代表者会を行いました。支援学校からは、それぞれで工夫しながらサークルの時間を作り、「1人では行き詰まってしまう実践のヒントを話し合うなど、若手先輩混じり合っ、とても有意義な時間となっている」「新任の先生の戸惑いも率直に話せる、聴く機会があり、ためになると好評」だと話されました。課題別サークルについても、なかなか集まる機会の少ない障級の先生の集まりが深まったり、成人期のMG会も「個別の問題から福祉労働の目的や面白みについても対話が弾む」と報告がありました。異動などで、サークル員の改編もありますが、また新たなスタートで、今年度もすすめていこう、と再確認しました。

今年度も充実した一年になりますよう、よろしく申し上げます。

